

ずいそう

思い描いた未来への期待

森 山 幸 司



今年10月、日本の社会基盤において、記念すべき大きな出来事があった。東海道新幹線の東京駅から新大阪駅まで500 kmが、1964年（昭和39年）10月1日に開業し、60周年（還暦）の記念の節目を迎えた。

世界初の高速鉄道として、東京オリンピックの9日前に運転開始。日本の三大都市圏を結ぶ大動脈として東海道本線とは別に新たに建設され、輸送力の増強が図られた。新幹線は開業後60年間、死亡事故もなく、ビジネス、観光、地方経済に大きな影響を与え、日本の高度経済成長を支え、日本中に大きな影響をもたらした。

一方、東海道新幹線の将来の経年劣化や大規模災害に対する抜本的な備えとして、リニア中央新幹線の建設が着工された。東京・名古屋・大阪を結ぶ日本の大動脈輸送の二重化である。

さらに、超電導リニアの高速性による時間短縮効果によって、日本の経済及び社会活動に大いに活性化することが期待された。リニア中央新幹線の開業に向けて、我が郷土の“なごや”のまちづくりが大きく動きはじめた。100年に1度の出来事である名古屋のまちづくりの新たな整備が、どのように考えられ進められてきたのか、20年前まで遡り取り組んだことも含めて紹介する。

2001年（平成13年）国土交通省誕生を契機に、中部地方整備局では、国、地方自治体・地元経済界の関係者が協働して、県境を越えた中部地方の目指すべき将来像の議論がはじまった。『日本の「まんなか」である地理的優位性を活かし、暮らし・産業が調和した、世界に誇れる中部の創造』を目標にした「第1次まんなかビジョン」が平成15年に作成された。このビジョンを通して、地域づくりの具体的な姿を描き、国と地方自治体、地元経済界、住民が一体となって豊かな中部地方を創りたいと目指した。本ビジョンづくりでは、地域住民の方々とビジョン討論会、住民満足度調査など地域住民の意見を行政に反映していくパブリック・インボルブメント（PI）を積極的に展開した。ここで地域との対話を深めるため、工夫を凝らした取り組みを紹介したい。

平成14年8月、議論のたたき台となる「まんなかビジョン（中間とりまとめ）」の表紙のデザインには、

日本列島の上に『日の丸弁当』を重ね、中部地方（日本のまんなか）の上に、赤い梅干を載せたシンプルなお弁当を描いた（図—1）。様々な情報交換や対話を通して、本ビジョンが、中部各地域の食材でみんなが食べたくなる『幕の内弁当』へと対話と協働作業のコンセプトを示した。これが功を奏して良い議論ができ、その成果を「まんなかビジョン（改訂版）」として平成16年3月に公表した。

また、有識者による日本のまんなかで我が国経済を牽引する中部の地域づくりのあり方などを議論、提言をいただく『まんなか懇談会』が設置された。この中で、リニア全線開通など国内外の社会の変化に的確に対応しつつ、2050年を見据えた中部の地域づくりのあり方や将来像などについて、活発に議論、意見交換が行われた。その成果として、平成26年10月に「第3次まんなかビジョン基本理念」が提言された。

この基本理念の考えが踏襲され、国土形成計画法に基づく中部圏の国土形成の指針となる「第2次中部圏広域地方計画」が平成28年3月に策定された。

現在、「新たな中部圏広域地方計画」の議論が進められ、「基本的な考え方」が令和5年7月に公表された。

中部圏における将来像は、『生活の質が高く持続的に成長する強靱な中部圏』を目指す。「交通・情報通信ネットワークの拡充により日本中央回廊の効果を最大化し、中部圏内の多様な地域が補完・連携しあって中部圏が一体となることで、我が国の社会・経済を牽引し、世界の拠点としての機能を果たす。」

具体の目標の一つに「リニア中央新幹線開業による新たな価値の創造」として、『リニア名古屋駅を核とした圏域づくり』が盛り込まれた。名古屋のまちづく



図—1 「まんなかビジョン」の表紙の変遷

りが国土計画の目標となり、事業促進が期待された。

今、名古屋市において、『リニア中央新幹線の開業に向けた都心まちづくり』が推進中である。名古屋駅周辺では、名古屋大都市圏の玄関口として圏域を牽引しながら継続的に発展していくには、これまでの課題を解消し、日本有数のターミナル駅の駅前にふさわしい空間形成の議論が進められている。こうした中、名古屋駅周辺まちづくりを進めるにあたり、様々な方からの応援メッセージが寄せられており、大変興味深く拝見した。

この中から、東京大学の羽藤英二教授の応援メッセージを紹介したい。「名古屋で今、駅前の新しいプロジェクトが推進しています。今交通モビリティの世界は、非常に大きな変革期にあります。超高速、超分散、超自動の三つの波によって、従前のモビリティの世界を大きく変わろうとしています。そのもっとも大きな変化が超高速リニア中央新幹線によって、国土が正に変わろうというプロジェクトが推進中であります。その受け皿が、この名古屋駅の非常に大きな東口と西口の大きなプロジェクトになるわけです。ターミナルスクエアという構想を我々は掲げ、大きな広場をいくつも重ね合わせるような形で、名古屋市民の方々が集える、そして世界中の人と交流しあえるような、全く新たな駅広場を造る構想を進めています。その中には、環境、デザイン、文化、新たなモビリティの取り込み、様々な議論が必要になってきます。その一つ一つを丁寧に解き明かしながら、この名古屋駅で結実するような、世界中の人がビックリするようなデザインを何とか生み出し、停滞している日本の中で新たな動きをこの名古屋から感じられる空間づくりを進めていきたいと考えています。是非皆さんで頑張りましょう。」

中心となってお苦勞されている先生の力強いメッセージに心を打たれた。

また、リニア名古屋駅の工事は、着実に進められている中、「リニア中央新幹線の開業に向けた名古屋駅周辺まちづくり」が多くの方たちの叡智によって進められている（写真—1, 2）。リニア中央新幹線の開業が、未来の“なごや”の発展にどんなインパクトをもたらしてくれるだろうか、今後の10年で大きく変貌するまちづくりを間近で感じながら、世界から注目されるまちの住人として、未来を担う子供たちとともに、自分自身もしっかりと備えていきたい。

“なごや”は、最近のNHK朝ドラ『虎に翼』をはじめロケ地がいくつもある。明治から昭和時代のドラマに出てくる建造物が残っていることも魅力の一つで



写真—1 名古屋駅東口リニア名古屋駅工事状況



写真—2 名古屋駅西口リニア名古屋駅工事状況



写真—3 名古屋市政資料館（ドラマのロケ地）

ある（写真—3）。

超高速鉄道や超自動化による最先端モビリティ都市が、これからの“なごや”が世界に誇る売りになる。「第1次まんなかビジョン」で描いた中部地方の「日の丸弁当」からみんなの叡智で食べなくなる「幕の内弁当」へめざましい変貌を遂げることをしっかりと見届けたい。